

令和5年7月期 定例教育委員会議

- ・開催日時 令和5年7月27日（木） 午前10時00分から
- ・開催場所 羽曳野市役所 別館3階 会議室1・2・3
- ・出席者
教育長 村田明彦
教育長職務代理者 奥野貞一
委員 多田謙司
委員 新熊和彦
委員 古山美穂
- ・説明者
教育監 堂山浩三
学校教育部長兼食育・給食課長 森井克則
生涯学習部長兼生涯学習課長 田中直明
兼市民大学事務長
学校教育部理事 黒木 悟
学校教育課長 伊藤 圭
文化財・世界遺産室長 南口修二
中央図書館長 藤井逸郎
教科書選定委員長 松井敏和
教科書選定副委員長 鳩野 元
- ・事務局
教育政策課課長補佐 萬田正英
教育政策課主幹 酒谷一騎
学校教育課参事 井上直也
学校教育課参事 村尾奈緒美
学校教育課課長補佐 新見豊和
- ・議事日程
日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 議案第19号
令和6年度使用中学校教科用図書の採択について

- 日程第3 議案第20号
令和6年度使用小学校教科用図書採択について
- 日程第4 教育長月次報告
- 日程第5 議案第21号
羽曳野市子ども読書活動推進委員会委員の委嘱について
- 日程第6 議案第22号
羽曳野市史跡古市古墳群整備検討委員会委員の任免について
- 日程第7 議案第23号
令和5年度羽曳野市市民表彰候補者の推薦について
- 日程第8 報告第6号
後援名義の使用許可について
- 日程第9 その他
・日程調整など

開会：午前10時00分

[教育長 開会の挨拶]

日程第1 会議録署名委員の指名について

教育長において、奥野委員を指名しました。

日程第2 議案第19号

令和6年度使用中学校教科用図書の採択について

- 学校教育部理事より、資料に基づき、令和6年度使用中学校教科用図書の採択について説明があり承認を求めました。

《学校教育部理事》

令和6年度使用中学校教科用図書の採択をしていただきます。

中学校の教科書については、5月の教育委員会において、現在使用している教科書の実績を踏まえつつ、4年前の調査研究の内容を活用して採用することでご了承いただきました。

お手元の資料1が、令和6年度使用中学校教科用図書案で、現在使用している教科書の一覧と同様になっております。

それでは資料1によりまして、令和6年度使用中学校教科用図書の採択について、ご審議よろしくお願いいたします。

【採 決】全委員一致により原案どおりに可決することに決定しました。

日程第3 議案第20号

令和6年度使用小学校教科用図書の採択について

- 学校教育部理事より、資料に基づき、令和6年度使用小学校教科用図書の採択について説明がありました。

《学校教育部理事》

お手元の資料2、資料3にある令和6年度使用小学校教科用図書の採択につきまして、選定委員会からの答申についてご審議いただき、採択を行いたいと思っております。

今年度は、「羽曳野で育つ児童にとって、学ぶ意欲の向上に繋がるものがあるか」を、選定の視点を中心とし、目標、内容を取り扱い、人権の取り扱い、発達段階への考慮、組織・配列、学びの工夫、補充的な学習・発展的な学習等について、各教科の調査、選定にあたりました。

それぞれ各社の教科書には特徴があり、どれもすぐれた編集がされておりましたが、先ほど述べました、羽曳野で育つ児童にとって学ぶ意欲の向上に繋がるものがあるかという方針に基づき、調査研究をしていただきました。

調査委員会は、教科ごとに複数回開催し、調査報告書を作成いたしました。

選定委員会につきましては、調査報告に基づき、計3回の協議を行い、答申の作成を進めました。

また、本日お集まりの教育委員の方々には、事前に教科書の閲覧等をしていただきました。本当にありがとうございました。

本日の流れですが、調査委員会からの調査報告資料と、選定委員会からの答申資料をもとに、教科ごとに選定委員会からの答申内容の説明及び質疑応答の時間をとります。

そして、教育委員で教科ごとに審議採択いただきますように、よろしくお願いいたします。

《選定委員長》

お手元の資料4、新学習指導要領における各教科の目標一覧をご覧ください。今回ご審議いただきます全種目、各社の教科用図書とも、これらに示されている各教科の目標の達成に必要な内容が適切に取り扱われており、発達段階に応じた教材が創意工夫され、配列されています。

本市で使用する教科用図書として示された各観点において、全種目各社の教科用図書とも、その基準を概ね満たしていることを、まず冒頭に申し上げます。次に資料2、令和6年度使用教科用図書選定資料調査研究報告書、小学校用をご覧ください。

各教科で調査委員会を組織し、調査研究を行っていただきました。

その際、調査研究の観点項目としては、例えば、表紙めくっていただいて国語、さらにめくっていただければ一覧になっていると思いますが、先ほどもありましたように、各観点としましては、目標内容の取り扱い、人権の取り扱い、発達段階への考慮、組織配列、学びの工夫、補充的な学習、発展的な学習、その他があります。

本日は、時間に限りがあることから羽曳野市の子どもたちにとってよりよい教科用図書をとという観点から、ポイントを絞ってご説明を申し上げたいと思います。

また、説明に当たりましては、選定委員会答申に書かれています内容通りではありますが、特徴的な例を示しながら説明をさせていただこうと思います。

【以下、教科ごとに採択】

国語

《選定委員長》

国語における教科用図書は、3社ございます。

それぞれの特徴的なところを、今から各社ごとに説明をさせていただきます。

まず、東京書籍でございます。

主に6年生の教科書をもとにして、説明をさせていただきますので、もしよければお手元を見ていただけたらと思います。

まず、東京書籍におきましては、言葉の力として、各単元で身につける資質能力を明確にし、段階的系統的に配列することで、螺旋的反復的に学ぶことができるように、配列されています。

例えば、6年生の教科書の6ページを見ていただくと、言葉の力というものの単元がわかるようになっていると思います。

また、6年生の90ページにあります。インターネットの投稿を単元のテーマに取り上げるなど、情報化社会に生きる上で必要な資質能力が獲得されるように構成されております。

以上は東京書籍の特徴です。

次に教育出版でございます。

同じく6年生上下がありますが、6年生の上の88ページをご覧ください。読むこと教材というのがありますが、読むこと教材の学習の手引きでは、上段下段の2段構成になっており、上段の学習活動を支える思考ツールや、図解、子どもの反応例などを掲載することで、子ども一人一人が実態に応じて主体的に取り組めるよう工夫されてあります。

同じく6年生上の139ページ以降ですけれども、ここが大事というまとめや、学ぶときに使う言葉等によって、自分が学んだことを振り返り、次の学年で活用に、失礼しました、次の学年での活用に繋げることができるよう工夫をされております。

以上が教育出版でございます。

最後3社目光村図書、同じく6年生の38ページをご覧ください。一人ひとりの問いが目標とリンクするようになっております。

自分で考えたことを、友達と対話して、学びを深めるなど、個別最適な学びと協働的な学びの両面から、学びを進めることが期待できるようになっております。

同じく6年生の261ページですが、それぞれの単元で学んだことを振り返ったり、再確認したりできるように、巻末に学習を広げよう様々な観点でまとめられたページが配置をされております。

以上が3社の特徴的なこととなります。

3社ありますが、子どもが言葉に興味関心を高め、進んで学ぶことができる教科書伝え合う力や思考力、創造力及び言語感覚を養うことに、効果的な教科書という視点で、選定委員会において比較検討した結果、羽曳野の子どもたちにふさわしいと意見が多かったのは、自分の考えを友達との対話を通じて学びを深め、個別最適な学びと協働的な学びの両面から、学びを深めることができるという観点から、光村図書という意見が多かったです。

次に、東京書籍という意見が多かったです。

ご審議のほどよろしく願いをいたします。

《教育長》

ありがとうございます。

教育委員の皆さん何度も教科書閲覧をしていただいていると思いますが、選定資料もご覧なりまして、今の説明に対してご意見、ご質問等ございましたら、お出しただけならと思っています。お願いします。いかがでしょうか。

《奥野委員》

今の説明をしていただきましたけども、羽曳野市の子どもたちにとって、やはり自分で考えたこと、友達と対話して学びを深める協働的な学び、あるいは個別最適な学びそういう面から、学習を進めることが期待できるというのは、本市の子どもたちにとって非常に有効的ではないかなというふうに思います。

《新熊委員》

ご説明ありがとうございます。

今回、光村図書さんをみさせてもらいましたら、問いを持つということで、最初に冒頭に掲げられて、そして話す、聞く、読む、振り返る、そして学習につながるっていう形になっているので、とても学びやすいなと思いました。

また、子どもたちも毎日教科書を持ち帰って音読をしっかりとやっているの、家族で教科書を見ることもあるんですね。

3年の1学期でしたら、コマっていう話があったと思いますが、それを通じてコマの遊びをちょっと体験したりとかしたので、とても国語の教科書に馴染みがあります。

今回光村図書さん見さしてもらいましたら、後ろの方に学習に用いる言葉も入ってまして、問い、段落、引用、出展、作品、国語に使うキーワードに関して、よく調べた言葉があるので、とてもわかりやすかったです。私も光村図書をしたいと思います。以上です。

《奥野委員》

すいません。もう1点。

4年生の下の部分に、光村図書さん「ごんぎつね」があります。

非常にこれ有名なお話で、それこそもう30年40年前から、この資料扱っていた、私自身の経験があるのですが、ちょっとあえて言わせてもらうなら、その挿し絵に関しては、昔の資料がよかったなというふうに思います。

そこがちょっと気になったところです。

【採 決】

全委員一致により国語の採択教科書を「光村図書」とすることに決定しました。

書写

《選定委員長》

書写における教科書は、3社ありますがそれぞれの特徴的なところとして各社ごとに順番に説明を申し上げます。

まず、東京書籍でございます。

東京書籍は、初めに硬筆、次に毛筆、最後にまた硬筆とそれぞれ別の文字を書く展開で構成をされており、学習した内容の定着を図り、書写の能力の基礎を養うように取り扱われております。

次に、教科書を見ていただきたいのですが、6年の、18ページ。

湖という字が取り上げられております。

これは、各社同じ文字が取り上げられておりますので、各社、比べていただけたらと思いますが、教育出版社の方は6年生の12ページ。

それから光村図書の方は6年生、7ページのところに同じ湖という字が取り上げられております。

両面を見開きで見ていただくだけでも印象が大分違うと思いますし、湖という字そのものを見ていただいても字の大きさであるとか、太さであるとかっていうところに特徴があるかなと思いますが、特に東京書籍に関しましては、手本の表記で止めや払いに気を付けるべき箇所が、しっかりと大きくてわかりやすいというふうに評価できるかなと思います。東京書籍は以上になります。

次に教育出版になります。

教育出版の方は、右利き左利きなど、両利き、両方のね、右利きの児童、左利きの児童それぞれに配慮されております。

それぞれが同等に鉛筆や筆の持ち方、用具の置き方、左利き用の図解、右利き用の図解と、それぞれ図解と写真が掲載をされております。

また、6年生の教科書の11ページ、15ページ、38ページ、39ページをご覧くださいと良いと思うのですが、6年生の11ページ、15ページ、38ページ、39ページ。書くという学習活動だけに終わらず、国語科書写を意識し、言語活動で伝える、表現するなど、言葉の力を育む教材を選定しているのが特徴かなと思います。教育出版は以上です。

次に、光村図書です。

6年生の6ページは10ページが特徴ありますが、次の大小で優先すべき、またはポイントとなる言葉を強調しています。

また3年生ですが、1ページから13ページ。

特に毛筆のところになります。

硬筆、毛筆とともにスタートブックが独立して付属されており、姿勢や道具などの扱い方や置き方など、学習前に習得すべき基礎基本事項が学びやすくなっております。以上が各社の特筆すべき事項です。

書写は3社ありますが、子どもたちが、文字を正しく整えて書くことができ、我が国の言語文化に親しみ、理解を深めつつ、関心を高め、進んで学ぶ教科用図書という現行の学習指導要領の目ざす観点に照らし合わせて検討した結果、羽曳野の子どもたちにふさわしいと意見が多かったのは、手本の字の美しさや止め払いが大きく、児童にとってわかりやすく掲載され、硬筆や毛筆から書く力に繋がる観点があるというところから、東京書籍、次に教育出版という意見が多かったです。

ご審議よろしくお願いたします。

《教育長》

書写につきましては選定委員会からは、まず東京書籍、次に教育出版の推薦の意見が出ましたが委員の皆さん、ご意見、ご質問はないでしょうか。

《古山委員》

どの教科書もすごく工夫がされているなと思って事前に見せていただいたんですけど、例えば、東京書籍の一年生の16ページに「ま」と「す」ってというのが、書いてあって、他の教科書にも「ま」と「す」がありますが、東京書籍の方は、同じで「ま」でも最後の「ま」のところ、とめてまた次に行くっていうのか、「す」も、ただ丸じゃなくて、どのように筆を運んで止めたらいいかっていうのが、この教科書が一番わかりやすいなというふうに思ったので、私も東京書籍がいいかと思いました。

《教育長》

他の委員さん、ご意見ございましたら。見てもらっておりますけど、各社いろいろと特色があると思いますが。

《古山委員》

さっきはそこがいいなって東京書籍さんをあげましたが、例えば、教育出版の方にもご報告があったみたいに手紙の書き方が6年生38ページ載っていますが、実際に字を一つずつ書いても、手紙や何か文章で書くって言った時に、どんなふうにまとめて綺麗に書くかっていうのは、この教育出版の方もすごくよく書かれているなというふうに思ったので、甲乙つけがたいなと思いながら、拝見いたしました。

一文字空けるって、なかなか大学生もいまだできない人が多くって、全体にこういうふうに文章をまとめるよっていうのは、すごくわかりやすいかなと思いました。

《新熊委員》

選定委員の先生だとかぶるかもしれませんが、書道で難しい止めとかはねとか、

はらい、この辺が東京書籍さんは詳しく大きく書かれており、3社比べましたら、ここがわかりやすかったので、東京書籍さんを推したいと思います。

【採 決】

全委員一致により書写の採択教科書を「東京書籍」とすることに決定しました。

社会

《選定副委員長》

社会における教科書は3社ありますが、それぞれの特徴的なところとして、まず、東京書籍、学習のポイントとなる問いかけを、学びのポイントとして示すことで、初期段階から見通しを持って学習に取り組める工夫がされています。各学年、左ページの下に、ありますので、ご覧ください。

二つ目としましては、5年生6年生を上下巻分冊とした構成となっています。これは東京書籍さんだけです。

次に、教育出版ですが、自分で調べて考えるページがあり、豊富な資料が用意されています。社会的事象の相互の関連、意味を多角的に考える力を育てることに、学習効果が期待されます。

5年生でいうと39から44、148から154ページにあります。

次に、6年生の教科書ですが、歴史の部分で白黒の写真の一部カラー化することで、児童に視覚的な理解が得られるように配慮されています。

296ページの方に一覧があります。

最後に、日本文教出版です。

調べたこと、発表し合う、深め合いの単元では、漫画でモデルとなる流れが示されています。また、質問の仕方や発表スライドの例などが、掲載されており、教科横断的に学習できるように工夫されています。

3年生、4年生、5年生、6年生、すべての学年に何度も貼り直すことができるSDGsシールを用いることで児童が主体的、対話的に学習ということができるよう工夫されています。これは、違う教科でも使えるということで、調査員の方からもありました。これらが、特筆すべき事項です。

3社ありますが、社会科の重要なところは、地域を学ぶ、地域から学ぶということです。そして、国際社会を主体的に生き、楽しく地域社会の一員として、意欲関心を高め、学ぶことができる教科書多角的な思考や理解を深め、問題追及ができる教科書という視点で、選定委員会において、比較検討した結果、羽曳野の子どもたちにふさわしいと意見が多かったのが、白黒写真を一部カラー化し、児童に視覚的な変化がより見やすく、児童に視覚的な興味、理解が得られることや、自ら調べる力を育むことができる点から、教育出版、次に東京書籍でありました。

ご審議よろしく願いいたします。

《多田委員》

各社ともすごくいい教科書だと思いますが、その中でちょっと今先ほど説明がありましたように、カラー化されているという、昔は我々の時代の白黒の写真しかなかったので、カラー化されるということで、見やすいなという部分もあるし、逆に言うと、すごくリアリティーがあつて、僕らの持っていたイメージとすごく違うなというのもすごく感じました。そういう意味では、ある意味少し斬新な形なのかなというふうに思っております。

あとやはりちょっと羽曳野の子どもたちにとってということでは言わせてもらうならば、やはり羽曳野の地というのは、まず古市古墳群の世界遺産にも登録されているということなので、その辺のことの観点も含めた教材がいいなというふうに思いましたので、その点でも、全社ともあるのですけれども、教育出版さんとか、あと、東京書籍なんかはすごくいいというふうに私は思いました。

《新熊委員》

ご説明ありがとうございました。

3社比べまして、東京書籍さんは5年6年分冊になっていますけど、このあたり、授業を進める上で何か気になる点とか注意される点とかあるのでしょうか。

《選定副委員長》

授業をやっていく上では分冊でない方がいいという先生の見但也有りますが、おそらくすごく分厚くなるので、持ち帰りの負担軽減のことをメインで考えておられると思います。

調査員の方からは、6年生でいうと歴史と政治を並べて一緒に見たりすることもできるねという意見とかもありましたが、今は、教科書を結構置いて帰ることが多くて、そういう面での負担のことはあまりもう考えなくて、今の時代、学校現場もいい意味で変わってきているのかなと。すごく配慮はされていますが、あまり重きはその部分については置かなかったというふうに選定委員会では考えました。

《奥野委員》

私も分冊の方が子どもたちの負担軽減になるのかなって単純に思っていました。今のお話聞かせていただいて、あまりそういうことは考えなくてもいいのかなということよくわかりました。

あと教育出版さんの白黒写真のカラー化。

これは本当に私たちの世代とかが見ると、おおーって驚く、すごいなっていう感じはしますが、今の子どもたちにとって、実際10歳、12歳の子どもたちは、我々と同じぐらいの感動というか、驚きがあるのかどうなのか、そこら辺どうなのかなと思うところですけども。

でも本当にいろいろ工夫されているっていうことでは、非常にいいなと思いました。

《古山委員》

これもまた甲乙つけがたいですが、東京書籍さんのまとめるっていうのがとっ

てもいいなと思っていました。それから教育出版の方も、次どうなったのだろうとか、ただその場面で終わるのではなく、次を考えさせて、広げていき進めていく視点もあって、どっちもいいなと思いながら聞きました。

《教育長》

社会の特に高学年で、タブレットも今十分活用していると思いますが、資料とか写真とかは、教科書のこの写真や資料が中心になっていますか。

タブレットを活用し資料を使うとか、今モニターとかがあると思いますが、やはりその教科書に載っている写真とかをかなり活用しているのですか。

《選定副委員長》

そうですね、手元でじっくり見るっていう部分では、やはり教師が別で準備しなくても、手元でしっかり見られるということで、モニターに大きく映すのは、みんなで一緒に部分を注目して、一緒に考えるという部分もありますが、教科書の写真資料っていうのは、意味がすごく大きいと思います。

【採 決】

全委員一致により社会の採択教科書を「教育出版」とすることに決定しました。

地図

《選定副委員長》

それではそれぞれ特徴的なところをお話させてもらいます。

まず、東京書籍です。

民族衣装などを来た子どもたちのイラストを掲載し、世界各国のありがたいのコーナーや世界の料理や、動物など多様な言語文化に関心を持ち、学びへの意欲へとつなげるために有効であります。

次に、日本の自然災害では、見開きの地図に詳しく災害実例を挙げ、トラフ、プレートも紹介することで、深い学びができるようになっています。

防災の学習にもすごく役立つのではないかと意見が出ておりました。

次に、帝国書院です。

小学3年生に向けて、地図帳の使い方やイラスト、写真、地図のように、順を追って解説していくことで、児童の発達段階に応じた学びができるよう工夫されています。

二つ目です。大阪市中心部の地図があり、児童が実生活にリンクした内容が多く記載されているので、興味深く取り組めるように工夫されています。

特に羽曳野市の児童にとっては、ちょっとずつ生活範囲が広がっていく中で、大阪近辺の地図が大きく詳しく掲載されているということがよかったところです。これらが特筆すべき事項です。

地図帳は、3年生から使用するものとなり、計4年間、折に触れて活用するものであります。自分に関する興味関心を持たせる重要な教科書という視点で、

選定委員会において検討した結果、羽曳野市の子どもたちにふさわしいという意見が多かったのは、実生活にリンクした内容が多く表記され、児童が興味深く取り組める点から、帝国書院、次に東京書籍でありました。
ご審議よろしくお願いたします。

《古山委員》

東京書籍さんもお飯の絵が書いてあり、本当に先生が説明されたようにいろんな視点から興味を引くようになっているなあと思って、帝国書院さんも先生方の説明でなるほどと思いましたが、確かに大阪市中心部の写真、地図ってのがこちらにはちょっとありませんが、それ以外に何か帝国書院の方が、子どもたち特にいいなあと思う他の点はありますでしょうか。

《選定副委員長》

3年生から使い出すということで、3年生が見てもわかりやすいというか、地図に繋がっていく部分っていうのですかね。
なかなか子どもたち、上からの視点で繋がりにくいのでそのあたりも繋がりやすいのではないかという意見は出ていました。
地図自体、社会科を中心に研究している先生方からは、地図としていいよねっていうか。

《古山委員》

大阪府とか見っていますが、たくさんありすぎるとまた見やすくないので、こちらの方がシンプルに見えるっていう事がいいってことですよ。

《多田委員》

両方とも本当にいい感じですけど、僕は、少し意見が違います。
東京書籍さんの方が何かこう興味を引くような、例えば分野、分野に分けてのグラフだとかそういうところが多く反映されていて、子どもたちがパッと見たときに地図とかにあまり興味を持たない子どもでも何かそういう映像からパッと入ってくるようなのがあって、すごくいいのではないかなあというふうには感じました。また、全体的に見て、やっぱり大阪のこととかが詳しく書いてあるという部分では、帝国書院さんもいいなと思うのですが、僕はどちらかというところの方がいいかなあと思ったりしたのですが、その辺でどうですかね。

《選定副委員長》

地図帳は、地図帳だけで学習するものではなく、各社会の内容であったりとかそれぞれの教科と関連するところとのリンクをさせながら活用するものなので、調査員は基本、地図帳をよく活用したりとかいろんな教科とどうリンクさせてこう使っていくという研究をしている人たちなので、それぞれですがその情報が要るか要らないというといらないよねっていう。

ただ、初任の先生であるとか、あまり社会科に精通されてない先生方にとっては、有効なものだよっていうことです。どちらを選んだかということですね。
何より、やはり一番、調査員の方でも、こちらの方でも、議論というか、いい

よねってなったのはやっぱりその大阪のところですかね。

《多田委員》

わかりました。やっぱ現場が使いやすいのが一番ですので。

《教育長》

最初に日本地図の全体があって、帝国さんは都道府県ごとに色分けしてあり、東京書籍さんは、地方、地方で色分けしてあり、この地方のくくりで色を分けているっていうのは、すごく個人的にわかりやすいと思います。それから地図記号なんかも個人的には、かなり覚えにくかったです。それは帝国さんの方がすごく大きくて見やすいですね。

《新熊委員》

比べてみますと帝国書院さんは、その歴史にちなんだ地名とかありますよね、鳥羽伏見の戦いとか。一の谷の戦いとか、こういう歴史と地理、地図を絡めて勉強しやすいのかなと思いました。

あとパッと見てやはりちょっと東京書籍さんはちょっと細か過ぎで見にくいところもあるので、パッと見るとやはり帝国書院さんの方がはっきりと見えるので、こちらの方がいいのかなと思いました。

《奥野委員》

先ほどから言われたように子どもたちの実生活にリンクしているという部分もすごく大事だと思います。

3年生の子たちがこれ見たときに、ここ知っているなど、そういう部分っていうのは、今後興味をもつっていうすごく大事なことだと思いますので、そういう意味では、地元っていうか、大阪が大きく扱われている帝国さんがいいのではないかなというふうに感じました。

【採 決】

賛成多数により地図の採択教科書を「帝国書院」とすることに決定しました。

算数

《選定委員長》

算数における教科書は6社がございます。

それぞれの出版の特徴的なところを、今から説明をさせていただきます。

まず東京書籍です。

6年生のものを使いながら説明をさせていただこうと思います。

東京書籍は、数直線の書き方や読み取り方を丁寧に示した数直線の図を使って考えてみようというものが巻末にあります。数直線の学習のたびに確認しながら、数量関係の表現力を高められるようになっております。

また、今日の学びでは、対話的な問題解決の過程が詳しく示されており、学習を進める中で、主体的、対話的で深い学びの実現を旨とする工夫がされてお

ります。6年生の教科書に258ページや、127ページに、今申し上げたような特徴がございます。

次に大日本図書の説明をさせていただきます。

大日本図書ですが巻末補充問題がありまして、プラスワンという名前があります。このプラスワンには、様々な難易度の問題を設けており、難易度の高い問題にはプラスマークがついてあります。

児童が自分で問題を選んで学習できる工夫がされております。また、算数の大切な考え方として、ひらめきアイテムが設定されておりまして、学習活動の中で、数学的な見方、考え方の見通しを持ちやすい工夫がされております。

6年生の教科書、大日本図書、264ページや10ページ、165ページなどに今申し上げたような特徴がございます。

次は、学校図書です。

学校図書は、子どもたちがつまずきやすい内容について、算数パトロール隊というページを設け、どんなところに注意すればよいかを具体的に示されており、子どもたちがどこに気をつけて考えていけばよいのかがわかるように工夫されています。また、数直線やテープ図など、図や表の四角に直接書き込めるところが多い構成となっております。

学校図書6年生の101ページや54ページに、今申し上げた特徴があらわれております。

続きまして、教育出版の説明をさせていただきます。

教育出版ですが、数学的活動の過程を「はてな」「なるほど」「だったら」という問いの連続で構成をしております。

児童の思考をつなげることで、深い学びが実現できるように工夫をされています。また、繋がる見方で、単元の見方、考え方を示し、次の問題解決にもう一度活用することで、深い学びの実現を目ざすよう工夫されています。

6年生の教科書で言うと、39ページ、42ページ、43ページ、また繋がる見方に関しては、95ページに、申し上げた特徴があらわれております。

続きまして、啓林館です。

啓林館は6年生の割合という単元で、数量の倍関係を把握するために、一貫して関係図を提示し、倍の概念を理解しやすくする工夫がされています。

また、QRコンテンツとして「動かす」「動画」「問題」「スライド」「解説動画」「スマートレクチャー」などのコンテンツが豊富にあり、習熟度に応じて個別最適な学びが期待されるようになっております。

啓林館の方は、6年生66ページ、また141ページなどに、今申し上げた特徴があらわれております。

最後になりますが、日本文教出版でございます。

日本文教出版は、各時間に見方、考え方があり、見通しを立てたり、筋道を立てて考えたりするためのヒントになるように工夫されています。

また、グッドチャレンジは単元の学習を踏まえ、見方考え方を広げる応用的な

内容や発展的な内容もっとジャンプは課題解決の喜びが感じられるような活用や探求に繋がる内容で構成されており、児童の学習状況に応じて取り組めるように配慮されています。

6年生の教科書で申し上げますと53ページや264ページ、274ページに今申し上げた特徴があらわれています。

6社の特筆すべき事項は以上でございます。

6社ありましたが、算数は基礎基本の積み重ねが大切な教科であり、算数的な活動の楽しさや数のよさに気づき、算数に対して興味関心が持てることを観点に選定委員会で検討した結果、羽曳野の子どもたちにふさわしいという意見が多かったのは、数直線の書き方や読み取り方が丁寧に示され、数量関係の表現力を高められるようになっていたりするところや、学習を進める中で、主体的、対話的で深い学びにつながることができる観点から、東京書籍、次に多かったのが、啓林館でありました。

ご審議のほどお願いいたします。

《古山委員》

算数は、中学校の数学に繋がる時に他の科目もそうなのかもしれませんが、1回つまずいたらつまずき放しみたいなすごく心配する科目かなと思っていて、でも例えばすごく算数的なセンスがある子にしたら授業がすごくつまなくて、ほんまに個別最適かって言うのはすごく大事なのかなというふうに思います。先ほど、全部見せてもらって、例えば大日本図書とか日本文教出版とか個別最適化に向けてホップ、ステップ、ジャンプで、今先生のお話しているのは、もうすっかりわかっているから、じゃちょっと次行こうかなっていうような子も授業中、熱心にできるのかなあとか、30人であれば30人、本当いろいろ差が出るところが算数かなって思うのですが一番は、羽曳野の子どもたち全体を底上げして、中学校に行っても算数やっぱりやりたいなって思ってもらうためには、先生が今話された東京書籍とか啓林館がいいっていう理解でいいですか。何か基本的なところを誰もこぼさず、ちゃんと理解がまずあって、次個別最適化に行こうと思ったら別に教科書以外のものを先生が教具、教材準備なさったらいと思うので、羽曳野の子どもが算数学びたいなと思うその視点が一番大きかったっていう理解でいいですか。

《選定委員長》

そうです。

《村田教育長》

羽曳野の子どもたちの課題って特に算数は、市全体としては課題があると思うのですが、本当に6社いろいろ研究していただいた中で、その辺の羽曳野の子どもたちの課題も踏まえた上で、選定委員会としては、いろいろありますけど、こういう形であげられたと。

《選定委員長》

そうですね。今算数を研究している先生たちが、数量関係であるとか文章問題が苦手っていう。ずっと言われているところがありますが、その文章から考え方の一つのツールとして数直線を使うということは、割と今熱心に取り組まれております。そういう意味からも数直線を前面に出している東京書籍がいいなという意見は多かったです。

《多田委員》

ちょっと質問です。

今、羽曳野の数学の授業の中でこのQRコードは、結構いっぱい教科書にのっていますけど、この辺りっていうのは、どこまでどういうふうに活用していけるのかなあと思っていたのですが、ちょっと啓林館さんとかの部分は、いっぱいありすぎて逆にこれがうまく活用できるのかなあというのを感じたりしますが、その辺はどうでしょうかね。

《選定副委員長》

今現在使用している教科書はあまりついてないです。

個人端末を持つように全国的になったことによって、次年度の教科書の部分から、各社それぞれQRをつけて動画とリンクさせたりしながら活用してくださいねっていう形なので、実際に教科書が変わってからそれを現場でじゃあどんなふうに使っていかうかっていうことは、これからといえばこれからですけども、やはり実際の映像っていうか、その関係するところを間近で見られるという点については、すごく有効かと思います。

円の面積を出す、紙の上だけじゃなくて動いて行って平行四辺形で面積が大体出せますよみたいなのが見れたりとか。

報告にもありますが、そのQRコードからの動画の評価は啓林館の方が高かったと聞いていますが、そこを重視するなら啓林館かなとは思いますが、そこはまだ議論していただいて。

《選定委員長》

現状でいいましたら、割と今、デジタル教科書の指導者用っていうのを導入していただいているので、そこをモニターに提示しながら先程申し上げた通りアニメーション機能なんかを使って、視覚的にわかりやすい授業は今取組んでいるけども、一人一人のタブレットでというのはこれからかなっていう感じがします。

《選定副委員長》

自分で振り返ることができますよね。

家に帰ってからここちょっとわからないなと思って、もう1回動画をQRから開いてとか。

【採 決】

全委員一致により算数の採択教科書を「東京書籍」とすることに決定しました。

理科

《選定副委員長》

理科における教科書は 6 社ありますが、それぞれの出版の特徴と特徴的なところとしまして、まず東京書籍です。

単元末の「ふりかえろう」は、児童が書いたようなイラスト形式で示すことで、児童がノートにまとめたり、まとめるための見本となり自主学習に取り組めるように工夫されてあります。

2 点目は、導入のページでは、化学的な活動レッツトライと、大きな写真で児童の興味関心を高めることで、児童が主体的に学習できるように構成されています。

次、大日本図書です。

理科の玉手箱、サイエンスワールド等で、学習内容と生活との関連が図られ、理科の有用性を実感できるように工夫されております。

2 点目は、巻頭の理科の学び方で、理科における問題解決学習の過程や進め方について示されており、全単元で、予想を立て、それらを解決するための方法の計画、実験や観察の結果について、予想と照らし合わせながら、考察することを通して問題解決の力が身につくようにしています。

学校図書です。

各学年の単元内容と、SDGs の 17 の目標とが関連づけられており、社会や総合などの他教科との組み合わせ学習、横断的にしやすい内容となっております。

単元の配列や実験の内容や表記の方法等に独特なものが多い。

特に人や動物の体の発達。

6 年生です。

からだの発展。

もっと知りたいでは、魚の体の内部を調べる方法で、解剖ばさみの使い方を提示したり、生物の暮らしと環境では、やってみようでは、にぼしの胃の内容物を取り出して顕微鏡で、微生物の観察を試みるなど、他にはない特徴的アプローチがみられます。

次に教育出版です。

予想と理由について、話型の指導を行うことで、児童の対話的な学習活動が進むように工夫されております。

2 点目としまして、5 年特設単元、川と災害では、大和川のつけかえを扱っていたり、6 年生の特設単元、地震や火山と災害では、2011 年東北地方太平洋地震の津波被害に関する内容を多く取り上げるなど、防災教育に力を入れています。

最後、啓林館です。

問題解決学習の過程を「見つける」「調べる」「まとめる」の 3 段階で示し、らせん状に学びが積み重なるような構成にすることで、児童が科学的な視点を

修得できるように工夫しています。

また、6年生、月と太陽では、月の位置と月の形の変化を調べる実験において、タブレットによる写真撮影を取り入れるなど、随所に1人1台端末を活用する試みがなされています。

また別の実験方法を二つ提示し、状況に応じた多様な方法で、実験ができるよう、工夫されています。

これらが特筆すべき事項です。

理科の学習で大切なのは、主体的、意欲的に問題解決をしようとする力を養い、科学的な見方、考え方を育むことです。

その点で、各社の教科書を比較検討しました。

選定委員会で検討した結果、羽曳野市の子どもたちにふさわしいと意見が多かったのは、問題解決学習の全過程を丁寧に示され、児童が科学的な見方や考え方を育成し、自ら学びを積み重ねることができる点から、啓林館。

次に多かったのが、大日本図書、そして教育出版でありました。

ご審議のほどお願いいたします。

《教育長》

私は、算数より羽曳野の子どもの理科は、すごい課題が大きく問題解決しようというその意欲を高めるなど、コロナの関係で実験等もされておらず、3年生、4年生のあたりでのこの教科書部分としても大事かなと思います。

そういった意味では調査員の方は、啓林館というのを推されているってということですね。

《選定副委員長》

はい。そうです。

《古山委員》

今、教育長もおっしゃったのですが問題解決思考の問いを立てて、PDCAを回すっていうのを小学校からしていたら、最初立てた問いと結果の整合性がとれないとか、何かだんだんずれていくみたいなことは、大学生で経験するのでやっぱり基本的なこのPDCAを回すっていうのを羽曳野の子どもたちには全部経験させていって、学力を上げるとか、ものの解決方法を学ばせるっていうのはすごく賛成かなというふうに思います。

啓林館さんと大日本図書さん、それが特によく強化されているっていうので理解しております。

いろんな見方ができるよっていうような意味では、この学校図書さんの形にとられず、こんなふうな見方で問いを立てられるみたいな、さっきのにぼしの胃の中だったりとか、はさみの使い方だったりとかっていうのは、知的好奇心をそそるから、甲乙つけがたいなと思っていましたが、やっぱり物の考え方の基本がPDCAを回すことで、いろんな興味が散在しても、それを解決する力には、繋がらないかなと思うので羽曳野の子の今の学力の課題から考えたら、先生方

のおっしゃるのがすごく理解できました。

大日本図書さんと啓林館で、啓林館の方は、先生方の、意見が多かったってことですが、違いと言えば、啓林館の方は、何が一番よかった感じでしょうか。

《選定副委員長》

調査員の方からは、実験のさせ方といいますか、こんな実験しますよっていうその実験の方法、道具や実験の仕方というところが、すごく失敗しにくい実験の仕方が提示されているということで、やっぱり子どもたちにとると自分の班の実験が失敗しちゃうと内容が入らないですよ。

実際に子どもたちは、よく失敗します。じゃあ、せつかく予想を立てて、こうなるのでは、ああなるのではとすごく考えて、よしやろう、こんなだったけど、こういうことになった。子どもの中では、ちゃんとやったらこうなるよと言ってあげたところで実際目の前でやった実験が失敗しちゃうとどうしても入ってこないですよ。すると間違えた知識として定着しちゃうこともあるので、とにかく失敗しにくい実験が提示されているということが報告されています。

《古山委員》

小学校の時点で、何かやっぱり自分たちなりに順番を考えて、やっぱりそうだったっていう体験をたくさん積む方が中学校、高校に繋がるっていう意味で、その方がいいっていう理解ですよ。

《奥野委員》

今の実験の話が出て、なるほどと思って聞かせてもらっていましたが、啓林館さんの方は、それ以外にも、防災とか減災とか自然からの恵みを紹介するとか、この辺もすごく大事な視点なのかなっていうふうに感じました。

問題解決学習の過程というのはね、どの社もとおられると思いますが、やはり理科という特性からいうと、本当これがすごく丁寧に大事に扱われるというところは、すごく大事ななと思います。

《新熊委員》

2社比べましたところ実験器具の説明に関しては、啓林館の方が詳しく書かれている感じを受けよかったです。あと、ポイントとなる言葉について、緑色のアンダーラインが引いてあるので、その辺も読みやすかったので、注目すべきキーワードをしっかりと目に入りやすいかなと思いました。

先ほど先生がおっしゃった防災に関しても火災が起きた時の防火扉の話も生きていく上で、燃える仕組みをしっかりとわかっていたら、命守れるのではいかとか思い啓林館の内容はいいかなと思いました。

【採 決】

全委員一致により理科の採択教科書を「啓林館」とすることに決定しました。

生活

《選定委員長》

生活における教科書は 7 社ありますが、それぞれの出版社の特徴的なところの説明をさせていただきます。

まず、東京書籍です。

身近な自然を使って遊ぶ学習を通して、理科の見方、考え方に繋がっていく姿が挿し絵などで示されております。

次に活動や体験を通して気づきを友達同士で伝え合う場面が具体的に示されており、協働的な学びができるように工夫をされております。

以上が東京書籍の特徴です。

次に大日本図書です。

生活科の学び方がわかりやすく示されており、低学年にも探求的な学習を行いやすい構成となっています。学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするために、上巻に気持ちマークが、設けられています。

以上が大日本図書です。

次に、学校図書です。

学校図書は単元末のもっとページでは学んだことを生かして意欲的に活動を持続、発展できるようにしています。また、各単元は、課題を設定し、活動を行い振り返るという流れになっております。

次に教育出版の説明をさせていただきます。

学習の動機づけがしやすいように、各単元の初めに、わくわくスイッチを設け、期待感を持って学習できるようにしております。次に、子どもが資料を楽しく読み解くことができるように、資料をクイズ形式にして、知りたい気持ちを引き出すようになっております。

次に光村図書です。

光村図書は、単元のまとめのページは、学びを授業だけで完結するのではなく、日常生活につなげていく構成となっています。また、学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や議論の習得を確かなものにするために、振りかえろうが、設けられております。

最後に啓林館です。

啓林館は導入として、「わくわく」主たる活動として、「いきいき」振り返りとして、「ぐんぐん」このような3段階で構成され、単元を通して活動が発展進化し、主体的、対話的で深い学びの実現となるように工夫が、なされています。また、図鑑やQRコンテンツなど豊富な資料により、個の状況に応じた学びを深めることができるようになっております。

以上が各社の特筆すべき事項です。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていくための資質能力を育成することを旨とする教科書とい

う観点で、各社の教科書を比較検討しました。

選定委員会で検討した結果、羽曳野の子どもたちのすばらしいと意見が多かったのは、単元を通して活動が発展進化し、主体的、対話的で、日常生活と関連づけた学びにつなげることができるという点から、まず啓林館。次に、光村図書、その次に、東京書籍となりました。

ご審議のほどお願いいたします。

《教育長》

光村図書さんの大胆にこの厚紙を切り離して使用する。これは、どうですか。

《選定委員長》

光村図書さんは、全体的な印象も絵本的な感じがあって、すごく特徴のある教科書だなという印象は強いですが、実際にそれを切り離して、子どもたちがどの程度活用できるのかっていうのは、子どもたちの様子を見てるとなかなか管理が難しいかなあっていうのは、意見としてあったように思います。

《教育長》

別冊の資料もね。

《選定委員長》

生活科って教科書をそんなに授業の中で頻繁に使うっていう感じではなくて、どっちかという先生たちがどんな活動するかっていう時に、参考にされることが多い感じはします。ただ、やっぱり学び始めの頃というのは、その教科書を開いて、これからこんな学習していくよ、こんな活動をしていくよというように、子どもたちに期待感を教科書を見せながら、高められることができるかなと思います

《奥野委員》

本当にどの出版社も非常に工夫されて、いいものばかりだと思いますが、その中で、最終的に啓林館というのが一番上がっていますけども、主体的、対話的で深い学びの実現の工夫がされているということですが、例えば具体的に、この部分でとかいうのがあれば教えていただけたらと思いますが。

《選定委員長》

啓林館で言いましたら、下の教科書で4ページとか6ページとか12ページを見ていただければわかりますが、明確に3段構成されています。

先ほども申し上げた通り、枠として「わくわく」っていう導入部分であったり、「いきいき」は主たる活動の部分であったり、振り返りは「ぐんぐん」っていうことで、その子どもたちにわかりやすい言葉でその学習のねらいや趣旨をわかるようにしているというところが、一番、主体的で対話的な学びに繋がっていくよう工夫がうまくされており評価が高かったかなと思います。

《新熊委員》

1年、2年で学ぶ生活に関しては、次3年からは、理科・社会へつなぐと思いますが、このあたりの接続に関して工夫がされている点があれば教えていただ

きたいのですが。

《選定委員長》

特に啓林館さんの方は、その図鑑とかQRコンテンツなんかが豊富で、特にそのQRコンテンツの中身が非常に充実しているのが特徴で、理科は啓林館さんを採用という形ですが、そこへの繋がり是非常に期待ができるのかなというところは強かったかなと思います。

《古山委員》

本当にどれも工夫されていて、甲乙つけがたいですが、先生たちが仰ってくださったみたいに、確かに啓林館はシンプルですね。

考え方で教科書を持って別にずっと外へ行くわけじゃないってということだったのと、あと、東京書籍さんも確かにこう進んでいくのはいいなと思ったけど、これ低学年の子どもたちがするということは、ここ読んでいて、興味ある子はここ読んでいき、だんだん深くやっちはいけるのですが、確かにこっちの方がシンプルで、先生方がその授業をされるときにこれを使いながらというのは、よりやりやすいのかなというふうには伺いました。

《多田委員》

もう各社すごくどれも甲乙つけがたいのですが、先ほど新熊さんからの質問があったように、3年4年という連動性とかを考え、そしてまたデジタルコンテンツが豊富だというお話もお聞きさせていただいた上ではやっぱり、啓林館さんがいいのかなというふうに感じました。

《古山委員》

どれもいいです。そうなんですよ。

いや、これはこの東京書籍さんは見ただけで楽しく読めます。

でも、確かに授業で使うだけじゃないですよ。先生方がいいというのが一番いいかな。

《教育長》

難しいですね。僕はもう光村さんも魅力的だなと思っています。

ただ、これが別冊になっているので、羽曳野の子ども達は、無くすかなっているのはありますね。この資料も、ちぎってしまうと、無くしてしまうのでは。各社本当に、特徴持ってやっておられるなと思います。

【採 決】

全委員一致により生活の採択教科書を「啓林館」とすることに決定しました。

音楽

《選定副委員長》

音楽における教科書は2社です。

まずは教育出版。

教科横断的な教材として、5年生民謡などで、生活、社会、算数、外国語、国語などとの関わりを題材として取り上げられています。

2点目です。全校合唱、音楽の贈り物、散歩を共通で使用でき、全学年通した取り組みが期待できます。

2社目になります。

教育芸術社。

誰もが使いやすいように、歌い方のヒントが数多く記載されています。

2点目です。各教科の見開き、右下に、音楽を語り、形作っている要素がまとめられています。これらが特筆すべき事項です。

2社ありますが、子どもが音楽の構造を理解するとともに、音楽活動の楽しさを体験し、心情や感情を育み、豊かな情操を培うことに効果的な教科書という視点で、選定委員会で検討した結果、羽曳野の子どもたちにふさわしいと意見が多かったのは、教科横断的な取り扱いが多く設定され、音楽を通して、表現の豊かさを育み、子どもたちの関心、意欲を高めていることから、教育出版でありました。

ご審議のほど、お願いいたします。

《古山委員》

音楽も甲乙つけがたいなと思いながら拝見していましたが、教育芸術社の方は、どのように歌うのがいいかと書かれていると報告があったと思うのですが、楽器を使うにあたってもすごく具体的に書かれていて、こっちもいいなあと思いながら聞いていたのですが、やっぱりその先生方がいいとおっしゃっていた教育出版の方は、音楽の時間って音楽だけは楽しく授業しようか、授業を受けてみようかみたいな子どもたくさんいるかなとは思うのですが、この音楽の教科書とか音楽の授業を通して、他の科目にも、こんなふうにつながっているとかっていうのがもう書いてあるので、やっぱりその方が、羽曳野の子どもたちにとっては、自然にこの先生の話とか授業だけじゃなくって、絵とか、こういう事例が入ってくるっていうのがやっぱり効果があるっていう判断でこっちという理解であっていますか。多分そうですね。

この方が見ているだけで、ほかの科目も繋がっているとわかりやすいってことですね。

他の科目への、意欲の向上に繋がるっていうことできつと選ばれたのかなあと考えたので私は、選定委員会のご意見に賛成したいと思います。

《選定副委員長》

おそらくなんですけど、明確にわかりやすく2社でコンセプトが異なっているのです。どの先生でも使いやすく考えられているのが教育芸術社、子どもたちの情操っていうのですかね、先生の使いやすさよりも子どもたちの学習というか、感性とかにうたえているのが教育出版かなと。

例えば歌の紹介をされているページを見比べると、全くコンセプトが違うのが

わかっていただけたと思います。大きな写真で歌詞だけ書いてある。
一方は、こんなこと注意して歌ってくださいよってということが書いてある。
羽曳野市内の現状を考えると、中学校で音楽を教えられていた方が多く小学校に人事配置されており、音楽の専科の先生が多いので、その先生方にとってはその情報はおそらく知らない。なんなら写真とかで、イメージを大きく膨らませてってところが。
だからコンセプトがほんとに全く違うので、新任の先生とか、音楽を教えたことのない先生が初めて音楽を教えるにはものすごく、教育芸術社さんの方が使いやすいと思うのですが。

《古山委員》

教育出版の方は、例えば、海を思う心とか、何かこう考えさせるようなものが書いてあって、子どもにしたら、我は海の子、歌うにしても、歌えとか合致するだけじゃなくって、やっぱり羽曳野の現状十分わかってないのかもしれないですけど、親が、子どもが我は海の子を歌っているときに海って行ったことなかったなあとか、お母さんが海行ったときはねとか、やっぱり話をする時間とか、海をそれこそ思う心を普段の家の中ではあんまりお話をせず、子どもたちの気持ち聞いたりとかっていうのも、羽曳野だけじゃなく、こういうことが書いてあるっていうのは、さっきも言ったみたいに、いろんなことに繋がっているという意味では、羽曳野の子どもたちのこの心をこう育てるにはいいのかなというふうに思いました。

【採 決】

全委員一致により音楽の採択教科書を「教育出版」とすることに決定しました。

休憩：午後0時05分～

再開：午後1時00分

図画工作

《選定委員長》

図画工作における教科書は2社ありますが、それぞれの出版の特徴的なところとして説明をさせていただきます。

開隆堂出版から説明をします。

巻頭に1年間の題材がひとめで見ることができる見開きのページがあります。児童の興味を引きつける工夫がされています。同じく見開きのページの下部にタブレットを使って振り返り、合わせて学ぼうなどの項目が、インデックスのように表記されているので、どの教材に取り組んだときも同じ手順で深めたり広めたりしやすいように工夫されています。

今申し上げたのは、3、4年生の上巻の5ページから7ページ、下巻の14、15ページをご覧ください。

次に、日本文教出版の説明をします。

多様な他者と協力し、話し合う題材が工夫されています。

また、身近な素材から新しい価値を持てるような、アイデアが示されています。

今申し上げたのは、特に1年2年生の下巻の30ページをご覧くださいと思います。

また、仲間と一緒に作っている様子や対話が中心となる活動が多く掲載されています。

お互いの違いやよさを認め合う力を育てようとしています。

例えば3、4年生の上巻31ページ、5、6年生上巻の48、49ページに今申し上げた特徴が見られます。

以上が、特筆すべき事項です。

2社ありますが、羽曳野市の子どもたちが大切にしたい、図工の活動を通して自分を認め他者を認め、多様な思いや考え方を尊重する、または尊重できる力を育む、このような観点から検討した結果、その中でも最も多く、羽曳野市の子どもたちにふさわしいとの意見だったのは、作品を作る過程の写真が掲載され、創造やひらめきを育み、子どもたちの学習や活動への関心意欲を高めていることから、日本文教出版、次に、開隆堂出版でありました。

ご審議のほどよろしく申し上げます。

《奥野委員》

本当に2社とも写真とか絵がとても綺麗で、どちらもすごくいいなというふうに思います。糸ノコのところを注目してみましたが、日文さんの18、19ページ。それと、開隆堂さんの32、33ページの部分です。どちらもいいなと思いますが、個人的な意見としては、日文さんの方が、本当に糸ノコのよさっていうか、木のぬくもりっていうか、非常にうまく表されているなということで、その部分を見ると、日文さんの方がすごくいいなというふうに思いました。

《古山委員》

どちらも、気をつけることとか、片付けのこととか振り返りとかQRコードも入っているの、私はどちらもいいなと思っており拝見しました。

あとは、先生方が使いやすいなと思って選ばれた方を賛同しようかなというふうに思います。

【採 決】

全委員一致により図画工作の採択教科書を「日本文教出版」とすることに決定しました。

家庭科

《選定副委員長》

家庭科における教科書が2社あります。

それぞれの特徴的なところとして、まず東京書籍です。

すべての題材を「みつめよう」「計画しよう」「実践しよう」生活に生かそう、新しい課題を見つけようのスリーステップで展開し、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、児童が主体的に実践的に体験的な活動を行うことができるように工夫されています。

2点目です。働いている人を特集したプロニックが随所に取り上げられ、子どもの学びが、キャリア教育という視点で、広がる工夫がされています。

次に、開隆堂出版です。

各題材とも学習の目当てが大きく表示され、1. 気づく、見つけるの発問から、2. わかるできるの実践、3. 生かす、深めるの発展という一連の学習の流れを示すことにより、学習課題が適切に設定され、児童が実践的、体験的活動を通して、日常生活に生かすことができるよう工夫されております。

2点目として、イラストや写真に幼児や高齢者、障がいのある人、病気のある人、外国にルーツのある人など、様々な人物や施設が取り扱われ、共生の観点に配慮されています。

これらが特筆すべき事項です。

子どもが衣・食・住に興味関心を高め、実践的、体験的な活動を通して、進んで学ぶことができる教科書。家族や地域の人々との関わり方を考え、生活をより良くしていこうと工夫する実践的な態度を養うことに効果的な教科書という視点で検討した結果、羽曳野市の子どもたちにふさわしいとの意見が多かったのが、発問、実践、発展と、一連の学習の流れが示され、児童が実践的、体験的活動を通して、日常生活に行かせることができるよう配慮され、子どもの学びを深め、家庭生活での実践に結びつけている開隆堂出版、次に、東京書籍がありました。

ご審議のほどお願いいたします。

《古山委員》

これも両方甲乙つけがたいのですが、開隆堂出版の方の24、25ページ、東京書籍の、33ページにボタンのつけ方が載っていますが、運針のやり方がちょっとわかりやすいかなと思って、私は、ここだけではないのですが、これについては開隆堂の方がわかりやすいのかなと思って拝見しました。

《多田委員》

私もこの両社どちらもいいと思いますが、やっぱり最初の見た感じですが、見開きのところとかを見させていただいても、すごくまとめられていて、見やすい感じがしました。

後、その中の部分の写真なんかとか、説明の部分を見せていただいても、開隆堂さんの方が、わかりやすいように感じましたので、私も開隆堂さんの方を推したいと思います

《新熊委員》

2社ともスリーステップで流れがわかりやすくとても学びやすいなと思いました。

あと、左利きに関しては、開隆堂さん、後ろのページに大きく取り扱っていただいているので、左利きの方に対してはちょっと配慮されているなっていうのを印象に持ちました。

全般的に開隆堂の方がちょっと見やすいかなと思ひまして、開隆堂を推したいと思ひます。

《奥野委員》

東京書籍の137ページ。開隆堂さんの148ページ。

今もありましたが、左利き、右利きの扱いについてなんですが、今言ったページの写真、包丁で材料を切るといふ、その部分を見ると私は、東京書籍さんの方がわかりやすいのかなと思ひます。写真も大きくなっているし、ポイントを上手く抑えられていいのかなってその部分だけを見ると、そんなふうと思ひました。

《教育長》

私も食育の観点で教科書を見たときに両方とも工夫されていますが、いろいろな地域の特産も含め東京書籍さんは、後ろに見開いたときに地域があり、そういう観点で見たときに開隆堂さんの教科書の方がちょっと力を入れているような気がしました。

【採 決】

賛成多数により家庭科の採択教科書を「開隆堂出版」とすることに決定しました。

保健体育

《選定委員長》

保健における教科書は6社あります。それぞれの出版社の特徴的なところを説明させていただきます。

まず東京書籍から説明をさせていただきます。

一つ目として①気づく見つける、②調べる解決する、③深める伝える、④まとめる生かすの4ステップで構成をしており、児童が見通しを持ちやすいように配慮されています。また、デジタルコンテンツが充実しており、事例や実験シミュレーションを動画で学習することができるなど、児童の理解を深めるように工夫をされています。これが東京書籍です。

次に大日本図書の説明をさせていただきます。

一つ目として、系統的な学びを実現するために、中学年から高学年への繋がりだけでなく、中学校で習う内容についてもマークでわかりやすく示されています。また、掴もう、の場面では、折り込みカードを利用し、その場面だけが情報として視野に入ってくるため、思考につなげやすい配慮がなされています。以上が、大日本図書の特徴です。

次に、大修館の説明をさせていただきます。

大修館では、各章の初めのページに、著名人とキャラクターの対話を掲載することで、小学生の児童が、意欲的に学習に取り組むことができるよう工夫がなされています。また、3、4年生中学年、仲間とのよりよい関係づくりのために、5、6年生高学年、よりよい関係を築く言葉では、発達段階に応じたコミュニケーションスキルやいじめに対応する方法などが紹介されています。

以上が、大修館です。

次に、文教社の説明をさせていただきます。

文教社は、単元の最後には、私の〇〇宣言があり、学んだ内容を発表し、自分の実生活に生かせるよう工夫がなされています。また、本時のめあてで、1単位時間の流れが明示されており、ミッション1から3というように、学習を進めることができ、まとめでは、学んだ内容を実生活に生かせるよう考えやすく工夫がなされています。以上が文教社です。

続いて、光文書院の説明をさせていただきます。

単元学習の後に興味関心を広げたり、学習内容の理解を深めたりすることができるよう、単元末に資料がまとめて掲載されています。また、各章のはじめに、学習する内容をストーリー形式、4コマ漫画などであらわしており、児童が共感しやすい日常の場面に触れながら、学習内容に入れるよう構成がなされています。以上が光文書院です。

最後です学研の説明をさせていただきます。

学研は、記述するところが多く、自分の考えや友達やみんなの意見を書くことができるように工夫がなされています。また、各項目を三つのピースで構成しており、個別最適な学びと協働的な学びが実現されやすいように構成がなされています。以上が、学研の特徴です。

これらが各社の特筆すべき事項です。

羽曳野市の子どもたちにとって身近な生活における健康、安全について理解ができる教科書、健康についての自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力を養うことができる教科書。

また、健康の保持増進を目ざし、楽しく明るい生活を営む態度を養うことができる教科書という視点で、選定委員会で検討した結果、羽曳野市の子どもたちにふさわしいとの意見が多かったのが、①気づく見つける、②調べる解決、③深める伝える、④まとめるいかすの4ステップで構成され、児童が見通しを持って学習を進め、理解を深めることができる点から、まず、東京書籍、次に学

研、その次に大修館との意見が出ました。
ご審議のほどよろしくお願いいたします。

《教育長》

保健では、子どもたちがノートを使用しないのですか。

《選定委員長》

保健のノートは、ほぼ使っていないように思います。

事前に学習のポイントをまとめたワークシートのようなものを書き込んだものをファイルに綴じるであるとか、画用紙に貼り付けていって蓄積していくとか、そういう使い方が多いかなというふうに思います。

《教育長》

先ほどのご報告の中に、学研さんが書き込むスペースは多いっておっしゃってましたね。どこもスペースをとっていますが、やっぱりスペースが多いのは学研かなという感じはします。写真も東書さんと学研さんは入れてありますね。

《古山委員》

もう私は、この性と自分らしさっていうところ辺が自分の専門なので、全部のところをちょっと見ましたが、この東京書籍の38ページ、性と自分らしさっていうこの4つのものさしを書いているのはここだけです。

ここは、男の子、女の子、もし二分化するのであったら体の特徴みたいのは全部載っているんですけども、これを見て、傷つく子たちも結構この小学校高学年から出てきますので、物差しは、体の性と心の性と好きになる性を表現したい生徒っていうので、全部この組み合わせが違うんだよというようなことが書かれているっていう点では、何かここだけかなと思って拝見しました。

《多田委員》

各社さんとも、すごくいい内容だと思いますけれども、一応3社出てきている中で、私は飲酒のところのページをちょっと見させていただいたのですが、学研さんの方でいろいろ書き込みとかもできるようになっていて、いいなと思いますが、全体的に見させていただいた時には、甲乙つけがたいなと。

ちょっと写真とかの部分とかを見させていただいた感じでは、私は学研さんの方がちょっといいかなというふうに感じました。

《教育長》

さっきの話にこだわりますが、学研さん非常にページ数で5年生6年生が多いと思います。少ないところを比べたら10何ページ多い。これは、やっぱり書くスペースをとっているからなのでしょう。

《選定委員長》

詳細はわかりませんが、印象としては、やはり子どもが書きやすいように、スペースを大きくとっているという事でページ数がかさんでいるのかなという印象はあります。

《古山委員》

皆さんの意見に引っ張られるわけじゃないですが、確かに飲酒の害とか、何かこう保健的に社会のルールとか価値感とかって、自分が調べたりみんなと話し合っただけで考えるっていうなんていうかステップが確かにあるなと思ったので、さっき私東京書籍さんって言ったけど、私別に学研さんでもいいなと思います。ただ、あのひと部分があるだけで救われる子とかがいるのかなっていうのもあったので、さっき意見を言いましたが甲乙つけがたい。

《奥野委員》

私は最初説明いただいたように、東京書籍さんの4つのステップ、これで児童が見通しを持ちやすいように対応されているっていう辺りから考えて、東京書籍さんがいいのではないかなというふうに思います。

《新熊委員》

東京書籍、学研両方とも内容的にちょっとすぐれているので迷うところですが、感染症に関しては、今さらなんですけどマスクの付け方とか詳しく載っているので、東京書籍さんの方を推したいとおもいます。

《古山委員》

質問していいですか。保健の授業は、どの先生も皆さんされますよね。

《選定委員長》

専門の先生じゃなくて、基本的には担任がしますが、一部の学校は高学年で体育の専科ということで入ってる学校もあるので、その者が保健をする場合もあります。でも少ないです。

《古山委員》

担任の先生からベテランの先生からいろいろといらっしゃって、さっき先生もおっしゃっていたみたいに先生も勉強して育てなあかんっていうのも含めたら、この2つのどちらがいいですか。学研の方が、まあ言ったら経験とかスキルとかはそんなに問わない作りになっているかなって思いますが、

《選定委員長》

東京書籍の方は、動画コンテンツとかのちょっと発展的な内容も入ってくるので、言ったらこっちの方が幅は広がるのかなと。先生目線からしたら、幅が広がるのかなというのがあります。

《多田委員》

この保健の授業は、週1日ぐらいですか。

《選定委員長》

体育の授業で大体90時間ぐらい年間ありますが、そのうちの20未満ぐらいの配当です。計画的にやる部分もあれば、雨が降って運動場で体育ができないので、今日は急遽保健っていう場合もあります。なので、定期的に週何回って言うわけではないです。

《古山委員》

もう一つ、睡眠のことを今ちょっと見ましたけど、東京書籍さんは42ページで

睡眠と発育で、学研さんは14ページで3、4年生とありますが、私たちの保健分野、専門の保健分野とかでも、眠育っていうのを広めましょうっていうのがすごくあって、何時にどう寝て、どうするとホルモンが出てとか、多分学校の先生が一番よく知っておられると思いますが、ただ早く寝なさいとか、夜ふかしては駄目と言うだけではなく、知識を持ってなぜそれが大事なのか伝えることを考えたら東京書籍さんの方がいいと思います。

《選定委員長》

現場としても教育長が旗を振っていただいたように基本的な生活習慣をつけるっていうのは、すごく重点的に考えているところなので、今のページなんかはすごく力を入れてやる部分かなとは思っています。

《多田委員》

私は、どちらかというと学校の教員の先生たちが負担にならないような使いやすい教科書の方が僕はいいかなというふうに思いました。なので、学研さんの方がいいかなと思います。

【採 決】

賛成多数により保健の採択教科書を「東京書籍」とすることに決定しました。

英語

《選定副委員長》

英語における教科書は6社です。

まず東京書籍。

各单元の中で、初めは聞くことを取り上げ、その後に話すこと。

読むこと書くことや、発展的なやりとりを取り上げている学習の流れがわかりやすく示されており、児童の意欲を高める構成になっている。

2点目です。ストーリー性の豊かなアニメ映像、実写映像、物語スライドやワークシートなど、児童の好奇心を刺激する多彩なデジタルコンテンツが搭載されており、児童が楽しみながら英語表現を身につけてつけることができる。

次に、開隆堂。

映像や音声を通して、個性豊かな登場人物が伝え合い、認め合う様子に触れることで、児童がコミュニケーションの楽しさや、重要性、多様性を尊重することの大切さを実感できるよう工夫されている。巻末や別冊で自分の伝えたいことに合わせて、語彙などを調べることができる。

三省堂さんです。

子どもたちにとって身近な場面を設定しており、表現を使う場面や目的に自然と入っていけるよう工夫されています。

2点目です。レッスンの各パートは見開きで、1時間、1ページの構成になっており、その日のゴールが児童にも、指導者にもわかりやすい紙面になってい

ます。

次に教育出版です。

3、4年生の外国語活動で行われてきた音声面中心のコミュニケーション活動について振り返りができるようになっており、5、6年生で学ぶ言語材料を導入する前に有効であります。

2点目は、レッスンの冒頭に単元目標が示されており、単元末で目標に関連したやりとりや発表する構成となっており、学習の見通しを立て、コミュニケーションの目的を意識しながらレッスンレッスン内の各活動を進めていけるように工夫されています。

次、光村図書です。

5、6年生を通じて、教科書が一貫したストーリーになっている。

また、身近な学校生活を題材にしながら、交流の楽しさや思いやりの大切さが伝わる、心の成長に繋がるものになっている。

2点目です。英語の学びと、他教科の学びをつなぎ、社会で生きて働く知識、技能の習得を目ざすとともに、SDGs、キャリア教育、防災教育など、今日的な課題も扱っております。

啓林館です。

紙面にQRコードを豊富に掲載し、教科書の各活動の音声アルファベットや語句を、ゲーム感覚で学習できるデジタルコンテンツがあり、個別学習でも利用できるようにしています。

2点目です。各ユニットに3つのステップを設け、聞く、話すを繰り返しながら、スモールステップで少しずつ積み上げていくようにしています。

これらが特筆すべき事項です。

羽曳野市の子どもたちにとって、子どもが言葉に興味関心を高め、進んで学ぶことができる教科書。伝え合う力や思考力、創造力及び言語感覚を養うことに、効果的な教科書という視点で検討した結果、羽曳野市の子どもたちにふさわしいという意見が多かったのは、身近な学校生活を題材にし、児童が英語を通して交流の楽しさや他教科と関連させて、理解を高める工夫がよりなされているという点を重視して、まず、光村図書、次に東京書籍、そして、開隆堂出版がありました。ご審議よろしく申し上げます。

《古山委員》

これも全部甲乙つけがたいのですが、羽曳野の小学校5年生、6年生の子が英語って楽しいからまたやってみたいとなんかそういう思いをするのが、東京書籍さんの方が会話をしてみようって思う工夫が多いような気がして、この通りに進めば英語を使って伝えてみようとか、考えてみようっていう、このステップがいいような気がしたのと、マイピクチャーディクショナリーっていうのも、使いやすいつて思いました。

光村図書の方も、いいなと思いますけれども、何かこう英語にものすごい興味

を持った子たちが、例えば、自分が出したヒントの一つを変えてから声に出して読もうとか、少しちょっと高度というか、私にとっては東京書籍さんの方が学ぶ積み上げができそうかなというふうにちょっと思いました。

《教育長》

パッと見開いたときに、東京書籍さんと開隆堂さんって基本的に構成よく似ているなと思っていて、光村さん独特の構成をしているなと思っていて、ただ調査員の先生方がこれを第1推薦という形で上げられた理由は、ちょっと今の説明の中でわかるのですが、僕も中身の方で使いやすいって言うたら、見た感じがすよ、東京書籍さんの方が何か使いやすいような気がするんですけど。

《古山委員》

東京書籍さんは、下にスモールトークとかタウンワークレターとか、しゃべったり調べてみたりとかっていうのもちょっと幅が広いような気がして、勉強を系統立てしていくには、親切かなと思っております。

《多田委員》

私も3社とも素晴らしい内容だと思うのですが、やっぱり5年6年生の英語ということで、初めてこの英語に触れ合っていく子どもたちにとって、一番入っていきやすさという部分が大きいのかなというふうに思っております。

その中で見ていたら、中身もそうですけど、マイピクチャーディクショナリーじゃないですが、こういうのがあってまたちょっと別の観点からこう見ていけるという部分に関しては、いいのかなというふうに思いましたので、私も東京書籍さんを推したいなと思います。

《奥野委員》

ちょっと聞き漏らしてたんかもわからないんですけど、最終光村さんの決め手というか、ここがこうやからっていうのがあったら教えていただけたらと思います。

《選定副委員長》

正直自分が英語を教えたことがないので、ただ観点としては、研究調査してもらった責任者の方に聞いたのは、やはりネイティブじゃないので先生たちが映像とか音声とか、そういうコンテンツの部分ってすごく英語って大事なんじゃないかなっていうこと。また、コンテンツの数的には、東書さんが一番多いです。

中身的なものを見たときに、3、4年の英語活動では、ゲームしたり歌ったりそんなことを中心にしながら英語に親しんでくる。

その繋がりの中で、歌のコンテンツが充実していたと。

もう1点は、ストーリー。5、6年を通じて一貫したストーリーになっているから、もっと言えば、登場人物が一緒に、入り込んでいきやすいのではないかなということで推薦がありました。

《新熊委員》

やはり3、4年の外国語活動と中学校の英語との繋がりに関してはやはり光村

さんは、いい感じでスムーズにいくような感じですかね。
今、教科書を見ていると3、4年生の活動が載っていたので。

《選定副委員長》

音楽と一緒に、今5、6年生の英語を担当が行うよりも中学校の英語専科で教えてくださっていた先生方が多く、どの学校でも教えてくださっている場合が多いです、5、6年生は特に。

調査員の中にも当然その先生も入っていただいております。

《選定委員長》

副委員長が言った通りに羽曳野の子どもたちだからこそ、何か一貫したストーリー性のある中に自分を投影することで、よりそこへ繋げていきやすく、意欲を持って英語に取り組むことができるようになるのではないという意見は調査員からはたくさんあったと聞いています。

【採 決】

賛成多数により英語の採択教科書を「光村図書」とすることに決定しました。

道徳

《選定委員長》

道徳における教科書は6社ありますが、それぞれの特徴的なところとして、説明を申し上げます。

東京書籍から申し上げます。

まず、全学年考えるためのツールというページで、試行ツールや心情円などの活用が示されており、学びを広げ深めるための工夫がなされています。

また、5つの重点指導内容を設定し、その内容についてはユニット構成されており、重点指導内容の学びがより深められるよう工夫がなされています。

今の話は、目次、2ページですね、2ページ見開きで見ていただくと、ユニット構成されていることがわかるかなと思います。

次の教育出版は、教材ごとに教科書での自己評価や学期ごと、及び年間を振り返ることができるシートがあるため、自分の学びを記録し、振り返ることができるよう工夫がされています。

また、学びリングや教材の解説、資料などのQRコードが多く、ICTを活用した学習ができるよう工夫がされています。以上が教育出版です。

次に光村図書です。

話し合う時のコツなどを学年ごとに示し、発達段階に応じた方法で、学びを広げ深める工夫がされています。全学年で、何だろう、何だろうというページがあり、哲学的な問いについて考えることができ、児童の学びを広げられるよう工夫がされています。以上が光村です。

日本文教出版です。

日本文教出版は、全学年に別冊として道徳ノートがあり、そのノートを見返すことにより、自分の学びを振り返ることができるよう工夫されています。また、デジタルコンテンツで動画や音声、ワークシート、信条メーターなどが教材に合わせて準備されており、学びを深めるための工夫がなされています。以上が日文です。

次に光文書院です。

1点目が、心情曲線やフィッシュボーンなどを活用し、考えを整理したりまとめたりする方法を学年に応じて紹介し、考えが深められるよう工夫されています。

2点目が、教材名の横にキーワードや問いかけがあり、児童にとって学びが深められやすくなるよう工夫されています。

最後は学研です。

学研は、様々な関連マークを用いて考えたいこと、確認したい大切なことがよりわかりやすく学べる工夫がなされています。また、いじめ、情報モラル、社会参画教育などが、児童の発達段階を考慮しながら、系統的に学習できるように工夫がされています。

以上が6社の特筆すべき事項です。

羽曳野市の子どもたちにとって、子どもがよりよく生きるための基盤となるよう、基盤となる道徳性を養うことができる教科書。

道徳的な判断力、信条、実践意欲と態度を養うことに効果的な教科書という視点で検討した結果、羽曳野の子どもたちにふさわしいという意見が多かったのは、児童が主体的に学びを進めたり、深めたりできるよう工夫がされ、発達段階を考慮しながら系統的に学習できることから、まず、学研、次に東京書籍でありました、ご審議よろしく申し上げます。

《古山委員》

どの教科書も考える枠っていいのですかね、例えば私のこととかあなたと私とか社会と私とか、命や自然と私っていいのは、学研さんや東京書籍なんかも最初に、6年かけて何について学ぶのかっていうのが、最初のこの5つのユニットでカテゴライズされていて、全部それがされていたしどの教科書もされていて何をもって深めていくかっていう視点も全部あったので、もうそれこそまた甲乙つけがたいので、先生が検討されて一番使いやすいなって思われたやつで私は賛成したいと思います。

《教育長》

他の教科でも聞きましたけど、道徳にノートはありますか。

《選定委員長》

道徳も同じような形で振り返りシートとかワークシートとかを使うことが多く、道徳ファイルって市販ファイルであったり画用紙であったり蓄積していく、保健と同じような感じかなと思います。

《教育長》

推薦には上がってませんが、日文さんがノートを單元ごとにあるんですね。

《奥野委員》

質問というか、こんな聞いたら怒られるかもわかりませんが、道徳の評価っていうのは、どう評価の仕方をされているのですか。

《選定委員長》

マスコミでも大分報道されているのですが、今、特別の教科に道徳がなっていて、なぜ特別の教科っていうと、いわゆる数値の評価は馴染まないということです。教科の教科書はあるけども、テストをしたり、数値で評価したりっていうのではないですよという意味で特別の教科と位置付けられているので、学校の通知票では記述式です。例えば、この單元について、こんなことについて学習しました。そんな時にこの子はこんな記述があってこんなふうな考え方をしていましたっていう、特徴的なものをご家庭にお知らせするなどの評価の仕方をしています。

《奥野委員》

ということはね、教材ごと預かった時に、自分の考えを何らかの形で残していく。

今、例えばノートっていう話も出ましたが、そんなものがある方が、指導者側にとっても、指導しやすいのかなという気がしました。

《教育長》

何かノートのことは別に調査員の方から何かなかったですか。

《選定副委員長》

ほぼ議論にはなってなかったですかね。

最後、2社に絞られてきている中で、一番違う所は、開けてもらったときに東京書籍さんだと、例えばどのページにも良いと思うことを価値項目の題名の横にすぐ書いてあります。

この物語では、これを学習しますよっていうことです。

学研さんの方はそれが無いのです。題名だけです。

子どもたちは、素直なので題名の横にこれが書いてあると、こういうことを今日は言えればいいのかっていうことになってしまうことが多く、書いてない方がいいよねって。

自由にその物語からしっかり感じさせたい、それぞれの思いをということで、こっちの方がいいのではないかなと。

《古山委員》

道徳の心とか価値感とかを人それぞれがこう膨らましていくときに、恣意的に大人がここを考えなさいよって持っていくこと自体縛りがあっておかしいなっていうことは、すごくわかります。

《選定委員長》

だからその価値の正しさを議論するのではなくて、その価値について自分がど

う思うのかっていうのを自由に議論するのが道德なんですね。
この価値が正しいよねって落とし込むのが道德じゃないので、その価値について自分は今までの経験でどうだったのかとか、これからどんなふうにするべきなのか、っていうのをそれぞれの考えを議論していくというのが道德になっています。
という意味で、価値項目がないほうがいいのかって判断をしたということです。

【採 決】

全委員一致により道德の採択教科書を「学研」とすることに決定しました。

《学校教育部理事》

以上ですべての教科書の採択が決定しました。
採択した小学校の教科書を読み上げます。

令和6年度使用小学校教科用図書

国語	・・・	光村図書
書写	・・・	東京書籍
社会	・・・	教育出版
地図	・・・	帝国書院
算数	・・・	東京書籍
理科	・・・	啓林館
生活	・・・	啓林館
音楽	・・・	教育出版
図画工作	・・・	日本文教出版
家庭科	・・・	開隆堂出版
保健体育	・・・	東京書籍
英語	・・・	光村図書
道徳	・・・	学研

以上です。

《教育長》

これで、令和6年度使用小学校教科用図書の採択について終わります。

休憩：午後2時10分～
再開：午後2時20分

日程第4 教育長月次報告

教育長から次のとおり口頭にて報告がありました。

- (1) 6月29日に、図書館協議会が行われました。
- (2) 7月6日に、南河内地区教育長協議会及び南河内地区人事協議会が行われました。
- (3) 7月7日に、大阪府都市教育長協議会が行われました。
- (4) 7月24日に、羽曳野市英語ドリームフェスティバルが行われました。

日程第5 議案第21号

羽曳野市子ども読書活動推進委員会委員の委嘱について

- 中央図書館長より、羽曳野市子ども読書活動推進委員会委員の委嘱について説明があり承認を求めました。

《中央図書館長》

羽曳野市子ども読書活動推進委員会設置規則によって設置されました「羽曳野市子ども読書活動推進委員会」につきまして、委員の任期が本年6月30日をもって終了いたしましたので、新たに子ども読書活動推進委員の委嘱を行うものです。

なお、任期は、令和5年8月1日から令和7年7月31日までとなっております。子ども読書活動推進委員会委員につきましては、羽曳野市子ども読書活動推進委員会設置規則第3条第2項により、羽曳野市立図書館協議会の代表者、学識経験者、子どもの読書活動に関心のある市民、市立図書館ボランティア団体の代表者、羽曳野市学校図書館司書会の代表者、羽曳野市立図書館の代表者、教育委員会事務局の職員、市の職員、市立保育園の職員、市立幼稚園の職員の内から教育委員会が委嘱する者となっております。

また、同規則第3条第3項により任期は2年、同条4項により再任する事ができとなっております。委員は、10名。このうち再任の方は、脇谷邦子様、高崎由紀子様、金本由香里様の3名となっており、他の7名の方は、新任となっております。

なお、脇谷邦子様につきましては、本市の定めております年齢基準等におきまして、再任する場合の75歳未満という条件を超えておりますが、子ども読書活動推進委員会委員として、平成18年10月13日から本年6月まで16年8ヶ月の長期わたり、本市の子ども読書活動にご尽力いただき、元大阪府立図書館司書としての高度な識見を有するとともに本市の図書館事業にも精通しており、学識経験者の立場より貴重なご意見を多数頂戴してまいりました。引き続き子

ども読書活動推進委員会委員として活動いただく事が図書館の円滑な運営に寄与するものと期待する事から委員の委嘱を行うものです。

以上、ご審議の上ご承認賜りますようよろしくお願いいたします。

【採 決】 全委員一致により原案どおりに可決することに決定しました。

日程第6 議案第22号

羽曳野市史跡古市古墳群整備検討委員会の委員の任免 について

- 文化財・世界遺産室長より、羽曳野市史跡古市古墳群整備検討委員会の委員の任免について説明があり承認を求めました。

《文化財・世界遺産室長》

執行機関の附属機関に関する条例によって「羽曳野市史跡古市古墳群整備検討委員会」が設置されております。現会長の田中哲雄委員から年齢及び体調不良により、委員を辞退したい旨の申し出がありました。

つきましては、ご本人の意向を受け解嘱状の交付することと後任について、田中会長及び奈良文化財研究所長 本中眞氏より推薦いただいております高橋知奈津先生を新たに委嘱することについて、承認賜りたくお諮りするものです。なお、後任の任期につきましては、「羽曳野市史跡古市古墳群整備検討委員会規則」第4条第2項に基づき、前任者の在任期間といたします令和6年10月31日とする事も併せてお伺いいたします。

ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

【採 決】 全委員一致により原案どおりに可決することに決定しました。

日程第7 議案第23号

令和5年度羽曳野市市民表彰候補者の推薦について

- 教育政策課課長補佐より、資料に基づき、令和5年度羽曳野市市民表彰候補者の推薦について説明があり承認を求めました。

《教育政策課課長補佐》

令和5年度羽曳野市市民表彰者の推薦についてご説明させていただきます。資料をご覧ください。

羽曳野市市民表彰につきましては、羽曳野市表彰条例に基づき、表彰の種類に

つきましては「特別有功者」「有功者」「自治功労者」「善行者」表彰がござ
います。

表彰条例及び審査要領に定められた各表彰ごとの選考基準の規定に基づき、各
部局から候補者を選定の上推薦書を提出し、秘書課取りまとめの上、表彰審査
委員会にて審査を経た後、市長が行います。

教育委員会事務局が所管する各課からの表彰候補者の推薦につきましては、教
育委員会議においてお諮りし、承認を得た上で、市長あてに推薦書を提出させ
ていただきます。

1枚目の「令和5年度羽曳野市市民表彰候補者総括表」につきましては、教育委
員会事務局各課から提出されました候補者をまとめたものです。

今回は、自治功労者として15名の方を候補者とさせていただいております。

なお、今回は、特別有功者、有功者、善行者の候補者はございません。

2枚目以降に資料を添付しておりますので、ご審議いただきますようよろしく
お願いいたします。

《教育長》

資料についているのが条例ですね。

《教育政策課課長補佐》

表彰候補者総括表の次に条例、条例の次に施行規則その次に推薦要領を付けて
おります。

《教育長》

この基準に基づいて、各課から候補者を推薦してもらっているという事ですね。

《教育政策課課長補佐》

そうです。資料最終ページの羽曳野市自治功労者審査要領に基づき候補者の推
薦をして頂いております。

《多田委員》

例年比べ推薦人数が減っているように思うのですが。

《教育政策課課長補佐》

昨年度も15名でしたので同数です。ただ、一度、表彰をお受けされた方は、対
象外となりますので、減っている可能性はあります。

《古山委員》

自治功労者表彰等を受けるとまた羽曳野市のために頑張ろうとなると思うので、
例えば、先日のドリームフェスティバルでALTの先生や仕事以外で活動され
ている方を洗い出して表彰出来たらいいのかなと思います。出来ないですかね。

《教育長》

規則等を改正しないと厳しいですかね。

《古山委員》

教育文化の普及などをやっておられる若い方は、自治功労者表彰の年数に達し
ていないので対象外ですが、引き続きよろしくお願ひします的な表彰が出来る

と色々と協力等して頂けるのかなと思いました。

《教育長》

古山委員が言われた教育に関して顕著な功績があった方は、教育委員会表彰の対象になるのかな。

《教育政策課課長補佐》

教育委員会表彰の規則等を確認しないと分からないです。

《教育長》

例えば、ALTの先生の中には、20年近くやっている人もいますので、その方を表彰するというのもいいのかな。

《教育監》

昔は、教育長の方針で表彰を行って褒め育てるという事で、教育委員会特別表彰や教育長特別表彰をやっていました。表彰規程にはないが表彰をしてきた実績はあります。

《教育長》

教育委員会表彰も今後の教育委員会議で議論するよね。

《教育政策課課長補佐》

はい。やります。

《教育長》

その時にまた議論しましょう。例えば、学校の生徒会が頑張っている取り組みなどがあれば検討してもいいのかな。特別表彰の枠を広げるという事もありかなと思います。

先日のドリームフェスティバルで誉田中学校のキープという英語のボランティアグループがあつて手伝いに来てくれたんです。ものすごく助かりました。

子ども達の感想にも中学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんと友達になれて良かった、楽しかったと書いているんです。

そういうグループを本当に表彰してあげるといいのかな。

【採 決】全委員一致により原案どおりに可決することに決定しました。

日程第8 報告第6号

後援名義の使用許可について

- 教育政策課課長補佐より、資料に基づき、後援名義の使用許可について説明と報告がありました。

《教育政策課課長補佐》

後援名義の使用許可について、ご説明させていただきます。

資料をご覧ください。前回の教育委員会議以降に専決処分を行ったもの2件に

なります。

1件目は、専決日 令和5年7月19日、団体名は「公益社団法人 日本プロボウリング協会」、事業名は「初心者向き健康ボウリング教室」です。

2件目は、専決日 令和5年7月21日、団体名は「羽曳野市民ウインドオーケストラ」、事業名は「羽曳野市民ウインドオーケストラ ウィンターコンサート（第41回定期演奏会）」です。

いずれも後援名義使用許可実績のある団体、事業です。

日程第9 その他

- (1) 事務局より、人事異動についての報告がありました。
- (2) こども保育課長より、西浦保育園・東地区3幼稚園の来年度の運営等について報告がありました。
- (3) 学校教育課理事より、校長役員会等との交流会について日程調整がありました。
- (4) 事務局より、今後の日程について連絡がありました。

教育長より次回の8月定例教育委員会議を、8月25日（金）に予定することを通知しました。

[教育長 閉会の挨拶]

閉会：午後3時30分